

「聞くことと語ること」

1. はじめに

- ・ヤコブは使徒ではないが、主の兄弟と言われている。パウロが自分の伝道が無駄にしないためにエレサレムにのぼり、いわゆるエレサレム会議が開かれた。そこでリーダーの役割を果たしたのはヤコブであった。

2. 本文

- ・4章1節でこの手紙の問題意識を語っています。「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。」これは間違った教え、異端のようなことではなく、私たちの教会生活における「信仰と行い」のことを言っているのである。2章14節で、「だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。」

- ・18節までで語っていること。

イエスを信じる者にとって信仰と知恵、試練、誘惑との関連は密接な事でした。信仰によって知恵、試練、誘惑の対処の仕方が与えられる。ですから、「あなたがたはそのことを知っているのです。」

- ・19節b「しかし、だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。」
- ・ヤコブは「聞くこと」は早く、「語ること」「怒ること」は遅くの理由を次のように語る。
 - 1) 20、21節 怒りは汚れ、悪からでる。(そういうものを捨て、素直にみことばを受け入れなさい。)
 - 2) 22～25節 ただ聞く者は自分を欺いています。(自由の律法を知っている者は事を実行します。)
 - ・怒りは人間関係のなかで常に発生する。丁度心配が常に心に湧き起ると同じように。パウロは「怒りはいつまでも持っていてはならない。」(エペソ4：26)と言う。怒りは「聞くこと」「語ること」に大きな影響を与えることは経験的に知っていることである。
 - ・怒りは私たちの「となりびと」との関係において、正しい人間関係づくりができるだろうか。従って19節bの勧めのように「聞くには早く、語ること、怒ることには遅いようにせよ。」そのことは「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という御言葉の実践につながる。

- ・言葉と意味について。

- ・言葉とその意味は同じだろうか。ヤコブはエレサレム教会の信者の信仰が「行い」から離れていると指摘する。彼らは同じ福音の「言葉」を共有していた。しかしヤコブのもつ信仰の意味と信者のもつ信仰の意味が違うという現実に出会った。26～27節に「宗教に熱心でも、自分の舌にくつわをかけず、自分を欺いているならば、その宗教はむなししい。」

- ・コミュニケーションにおいて言葉と意味の違いを感じることはしばしばある。そういう意味でコミュニケーションは意味と意味の出会いです。信仰は聖霊によって意味が与えられる。エルサレム教会の多くの人々が未だ肉の心で信仰を意味付けていた。(22節～27節)

3. おわりに

- ・2：8「もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という最高の律法を守るなら、あなたがたの行いはりっぱです。」
- ・ヤコブの言葉を通して、私たちの会話、対話、議論などコミュニケーションを省みることは「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という私たちの教会づくりの理念にとって必要なことではないかと思えます。